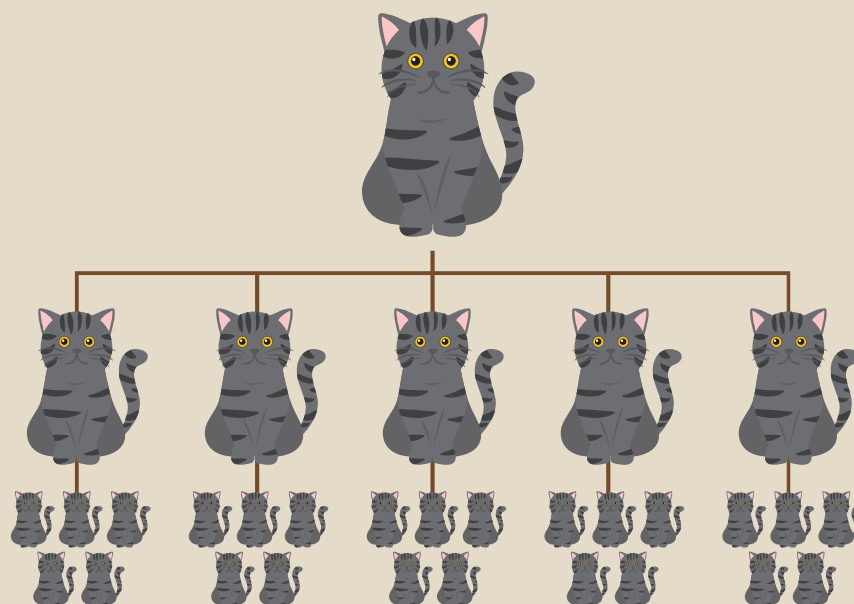


不妊・去勢手術のススメ



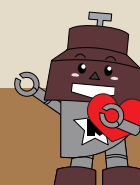
猫が妊娠・繁殖可能になる月齢は、通常、生後6～9か月で年3回以上の妊娠・出産が可能です。1回の出産で平均5匹産まれると言われています。



「子猫が産まれても、きっともらい手が見つかるだろう」といった甘い考えは通用しません。

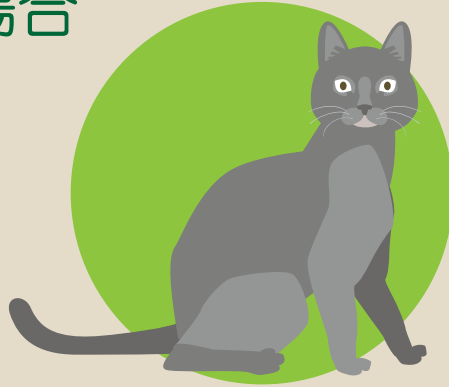
一部の無責任な飼い主による管理不足から生じた捨て猫や迷い猫、自然繁殖して増えてしまった飼い主のいない猫がカラスなどの外敵に襲われたり、飢えや病気、ケガに苦しんだり、交通事故で死んでしまったりするなど、悲惨な結果になっています。

飼い主が猫のためにかかる手間や時間、与えられる住環境には限りがあります。適切に飼養管理ができる数を超えないようにすることも飼い主の責務です。不妊・去勢手術をするなどして繁殖させないようにしましょう。



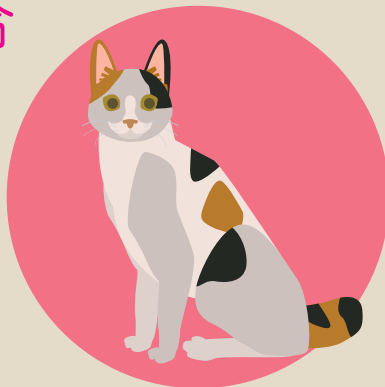
- 不幸な猫を減らすには、不妊・去勢手術により繁殖を防ぐことが効果的です。さらに、次のような利点もあります。

オス猫の場合



- 性格が穏やかになり、猫同士のケンカが少なくなる。
- 精巣腫瘍などの生殖器系疾患のリスクが軽減できる。
- 発情しているメスがいても外に出たがらなくなる。
- 尿臭がうすくなり、スプレー行動（猫が自分のなわばりであることを示すため、尿を噴射してマーキングすること）を抑制できる。

メス猫の場合



- 穏和な性格が保たれ管理しやすい。
- 子宮蓄膿症や卵巣腫瘍などの生殖器系疾患のリスクが軽減できる。
- 発情期の異常な鳴き声や落ち着きがなくなるなどの行動がなくなる。

不妊・去勢手術をして繁殖を防ぐことができても、猫にとって家の外は、交通事故、病気、ケガ、迷子など、危険がいっぱいです。室内飼いをおすすめします。